

国労青婦家 中央行動開催！

三月十六日に第十七回国労 青年婦人家族中央行動開催

JR貨物

の仲間と共に！

本社前行動

さる三月十六日水道橋・全通会館にて国労青年婦人家族中央行動が開催され、北海道、南は九州・四国から多くの青年婦人家族部員が集まり、イラク問題について猿田弁護士から、JR貨物本社前集会を貨物の仲間と行動を反にし、その後全体集会・厚生労働省要請行動・国土交通省要請行動と盛りだくさんの一日となりました。

全体交流会

札幌

六三〇名の国労組合員中二六〇名が脱退した。札幌支部は最小の脱退ですんだ。闘争団



と一緒に脱退するとかいろいろ誤報が流れた。いきなり産労と脱退するなんて納得できない。数が多くなれば流れは変わると思うが・・・？とにかく最悪は避けられたと思う。共に頑張る。

西日本

契約社員が多く

なっている。3月末で契約が解除になる。会社で文句を言ったら：すぐ。1ヶ月だけ国労に入ってくれた。ベッドの回転が大変だ。入院も早期に退院となってしまい、外来で糖尿病が悪化した例もある。我々は自分の健康管理も出来ないありさまだ。外来は当直体制なので忙しいときは8時間ぶっとおして働くこともある。

九州家族会

営業の仕事

をしているが、生活のため頑張っている。夫の年齢も五六歳となり失業中で雇用保険をもらっているが健康もすくれない。ハローワークに通ってパソコンも習っている。7年前家を建てたがいつまで払いつづけられるか不安だ。

北見闘争団

一部闘争

団といわれている、旭川地本です。私たちは本部方針に反対しているが、それはこの一七七年間にたいしてJRにも責任があるとそれだけで闘ってきた。国労であること、女性であることに対する差別職場が廃止され北見駅に配転され、一週間営業係の学園に行き直営の喫茶店に配属された。その後人活になり女性には要らないといわれた。営業係とはいえずインジカード旅行セールスを中間駅のほとんど人のいない駅でやらされた。清算事業団では女性用のトイレも無く、休憩室も無かった。毎日自学自習の日々だった。個人面談は私は一回だけだった。仕事も無くこうしていつまでもいるわけには行かないと考えて、次の日当局にこの職場に行きますという、実はあの話はうそだ

といわれた。一人十五件の面接なんて無かった。

青年部

私は、川崎駅の近くにいます。勤続十年になる。試験を受けても受からない。司法試験より難しいJRの試験といわれている。

東京家族会

生活の中で不安に思っていることは、年金だ。厚生年金は負担金は上がる、介護保険も上がる一方だ。社会保障をきちんと進めてもらいたい。イラクの問題もあるが、平和と民主主義を守る闘いも大切だ。

近畿

先月病氣休職をした。産業界の言っている事は会社側の考えだ。休職は三年までできるといって……。僕が戻りたいといったら仕事をやりたければやってもええ。という。それでも二ヶ月で職場復帰できた。今リハビリ

リで日勤務をやっているが、九時十時まで出勤している。最近は何日出勤まである。あんまり出勤をつけすぎると代休が発生するといわれている。何でも出勤だせば良いというわけではない。

大阪

せっかくみんなの力ンパで来たので発言したい。貨物職場では、JR貨物と会社の癒着が強まっている。

平和が大変な状況だ。原水禁世界大会と原水協とみんな分担して参加してきた。なかなか国労の運動が見えない。



東京婦人部

先月東京地本婦人部委員会を開催した。地本の会議室に、七名が集まった。東京地本の半分くらい集ま

った。一通り経過を話し合った後はフリートークで自分たちの個人的な、どういふ風に頑張ってきたかを話し合った。みんな夢中で時間が感じられなかった。終わったとは場所を変え交流会でまた話をした。

青婦家中央行動に参加して

参加して

三月十六日二〇〇四春闘勝利・青婦家中央行動が開催された。開会セレモニーに続き猿田佐世弁護士による「イラク問題について」の講演があった。この内容は東北総決起集会と同じ物だったが、三月に聞き逃した部分もあったため二度聞くことにより内容が良くわかりそしてイラクの人たちの悲惨な状況をひしひしと感じ戦争は絶対許してはいけないとの思いを強くした。十一時から貨物本社前集會に参加した。午後からは全体交流で多くの仲間から実態報告がされた。

西日本婦人部からは、契約社員が会社の理不尽な労働条件に反発し国労に加入した。新潟の家

族会からは北海道で組織分裂があったが、これからも函館闘争団と交流を持つていくと報告があった。大阪地区青年部からは学習会や集會を行った。平和の取り組みをこれから頑張ると十四名からの報告があった。

また中央行動のあり方について再確認をしたらどうかとの意見も出された。

最後に闘争団連絡会鈴木事務局長から、平均年齢も五二歳、五五歳以上が三分の一、六〇歳以上六十人以上、他界二六人。組織自活七〇%個人自活三〇%などの現状報告があった。三対二の判決に悔いが残っている。三六闘争団の団結の回復・早期解決に向けた議論を展開している。不当労働行為の責任は清算事業団にあることを徹底追及していく。イラク攻撃・不当労働行為を許すことなく闘いを続けよう。



この十七年間にはJRの責任がある!